

【分野】 基礎分野 総合基礎 I

【科目】 基礎栄養学

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	月野和 美砂 (つきのわ みさ)	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	8 回

【授業情報】

授業概要	<p>人が心身ともに健康に生きる上では食生活は重要であり、1日3度の食事により十分な栄養が毎回補給されなければ体は疲れ、やる気もなくなってきます。そこで身体に必要な5大栄養素を一つずつ取り上げます。</p> <p>栄養が入った“食品”群や栄養の入った食品から作った“料理”で日々の栄養バランスをとる方法や基礎代謝や身体活動量などのエネルギー収支について、また体のさまざまな不快な症状と適した食べ物についてとりあげたいと思います。</p>
授業の一般目標 (G10)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5大栄養素について説明できる。 ・ 各栄養素について多く含有する食材をあげる事ができる。 ・ BMI を計算し、適正体重を計算することができる。 ・ 基礎代謝や活動エネルギーを計算し、エネルギー収支を計ることができる。 ・ 不快な症状に適した栄養素をあげる事ができる。

【担当教員から】

教科書	配布プリント
参考書	特になし
成績評価基準	<p>○授業の理解度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 <p>→開講期間中に実施する科目試験により評価する。</p>
成績評価方法	<p>成績評価の基準 (評価割合 (%))</p> <p>科目試験成績 …… 100%</p>
履修の条件 留意点	<p>科目試験の点が60%以上を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p>
★担当者からの メッセージ	<p>健康な食生活を送るために、どの様な栄養素が必要なのかを理解しましょう。栄養素の種類と機能を理解将来、現場で関わる患者さんにどんなシチュエーションでこの話が使えるかな?とイメージしながら受けてみてください。また、自分自身の食生活を振り返るきっかけにしましょう。</p>
オフィスアワー	授業開講日の休み時間

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SB0s)	講義形態
前期	1	食生活の振り返り・5大栄養素「炭水化物」	炭水化物の種類と多く含む食品を説明できる	講義
	2	5大栄養素「脂質」	脂質の働きと多く含む食品を説明できる	講義
	3	5大栄養素「たんぱく質」「無機質」	必須アミノ酸の種類と肉の特性を説明できる 無機質を多く含む食品を説明できる	講義
	4	5大栄養素「ビタミン」	ビタミンの種類と働きについて説明できる	講義
	5	基礎代謝と身体活動	目標とするBMIの範囲と計算法の説明ができる	講義
	6	「食品群」「食事バランスガイド」	食品群から食事バランスガイドへの分類できる	講義
	7	冷え症・肩こり・疲れ目・かぜ・だるい・ストレス	冷え症、肩こり、疲れ目、かぜ、だるい、ストレスの原因や取るべき栄養素を説明できる	講義
	8	科目試験および試験解説		試験/講義

【分野】 基礎分野 総合基礎 I

【科目】 細胞と生命

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	塗々木 和男 (とどき かずお)	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	8 回

【授業情報】

授業概要	生物とは生きているもの、生命活動を営むものをいう。生命活動とは①自己保存（自身の身体を成長・発達させながら生命を維持すること）と、②種族保存（子孫を残すこと、つまり生殖）のことである。また、我々ヒトを含めてすべての生物の身体は細胞という生命活動の場である基本的要素（構造的・機能的基本単位）で構成されている。本講義では細胞の基本的構造と機能、代謝、細胞の増殖、遺伝、ホメオスタシスなどについて学ぶ。
授業の一般目標 (GIO)	細胞生物学を学びながら、人間も環境に適応しながら生存する生物の一員であることを認識し、生命活動の基本的仕組みを理解する。

【担当教員から】

教科書	配布プリント
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 → 開講期間中に実施する科目試験により評価する。
成績評価方法	成績評価の基準（評価割合 (%)） 科目試験成績 …… 100%
履修の条件 留意点	科目試験の点が60%以上を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	本講義はとくに専門基礎科目の「人体の機能（生理学）」を理解しやすくするための基本的知識の習得を目標としています。授業後は復習の習慣をつけることが大事です。予習→授業→復習のサイクルを守るようにして下さい。質問は授業中でも大歓迎ですが、時間が十分に取れない場合があります。Eメール (todoki@kdu.ac.jp) でも受付ますので利用して下さい。楽しく、活発な授業にしていきたいと考えています。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	細胞の基本知識 (基本的構造、代謝)	細胞内小器官を列記し、その機能について説明できる。	講義
	2	細胞の基本知識 (細胞の増殖、分化)	体細胞と生殖細胞の細胞増殖の仕組みと分化について説明できる。	講義
	3	自己保存① (ホメオスタシス)	内部環境の体液区分について述べ、ホメオスタシスについて説明できる。	講義
	4	自己保存② (刺激の受容と反応)	反射について述べ、環境への適応機構について説明できる。	講義
	5	自己保存③ (生体防御の仕組み)	免疫応答の仕組みについて説明できる。	講義
	6	種族保存① (生殖)	単為生殖と有性生殖の相違点について述べ、	講義
	7	種族保存② (遺伝)	遺伝について述べ、遺伝性疾患を列挙できる。	講義
	8	科目試験の解説		試験

【科目】 映画で英語

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	龍頭 美憲 (りゅうとう よしのり)
単位数	1 単位	実務経験	
科目必選区分	必修	時間数	16
開講学期	前期	授業形態・回数	講義 8 回

【授業情報】

授業概要	<p>中学・高校とは違ったアプローチで英語を楽しみながら勉強しましょう。科目名にもあるように映画のワンカットを使い表現を学んでいきます。現代社会はグローバル化が進んでいます。海外から来る方の標準語は英語になりますので、ネイティブな発音にも対応できるように訓練します。</p>
授業の一般目標 (G10)	<p>日常、よく使われる会話を聞きとり、理解することが出来る。</p>

【担当教員から】

教科書	配布プリント
参考書	特になし
成績評価基準	<p>○授業の理解度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的知識の修得 ・ 知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 <p>→開講期間中に実施する科目試験により評価する。</p>
成績評価方法	<p>成績評価の基準 (評価割合 (%))</p> <p>科目試験成績 …… 100%</p>
履修の条件 留意点	<p>科目試験の点が60%以上を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。</p>
★担当者からの メッセージ	<p>このレッスンで大切なことは発音することです。自分で声を出していき、早口言葉の練習のように失敗しても構いません。何回も声に出していきましょう。そして、復習では書きながら声に出して練習してください。</p>
オフィスアワー	授業開講日の休み時間

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	ネイティブの発音にするために	発音されないことがある音節の最後や語尾の破裂音を体験する。	講義
	2		漢字感覚での練習を体験する。	講義
	3		語尾の「p t k b d g」を発音しないことが多いことを体験する。	講義
	4	ネイティブの発音を聞きとるために	映画から聞きとった内容を記述できる。	講義
	5		音楽から聞きとった内容を記述できる。	講義
	6	助動詞の使い方	話し手の感情を込めた言い方を体験する。	講義
	7		相手の気持ちを考えた言い方を体験する。	講義
	8	科目試験の解説		試験

【科目】 運動と健康

【基本情報】

配当年次	1 学年	担当教員	春日井 有輝 (かすがい ゆうき)	
単位数	1 単位	実務経験		
科目必選区分	必修	時間数	16	
開講学期	前期	授業形態・回数	講義	8 回

【授業情報】

授業概要	超高齢社会に突入した日本では、健康寿命の延長を目指して改めて健康への関心が高まっている。現代社会における地域社会や家庭、教育の場、職場等と健康との関わりについて考え、健康の根本となる睡眠、食事、運動の重要性を再度認識していく。
授業の一般目標 (G10)	・健康の維持、増進をするための運動の重要性を理解し、運動と身体の変化の関連に必要な知識を習得する。

【担当教員から】

教科書	配布プリント
参考書	特になし
成績評価基準	○授業の理解度 ・基本的知識の修得 ・知識の習熟度と修得した知識の応用能力の有無 →開講期間中に実施する科目試験により評価する。
成績評価方法	成績評価の基準 (評価割合 (%)) 科目試験成績 …… 100%
履修の条件 留意点	科目試験の点が60%以上を以て履修とする。なお、本科目の定期試験受験の為に、授業の60%以上の出席が必要です。体調管理をしっかり行い、授業の出欠には充分注意してください。
★担当者からの メッセージ	スポーツの現場、治療の現場、テレビなどで様々なタイプのテーピングを見たことがあると思います。白いものやカラフルなもの、細いものや太いもの。色々なテーピングがありますが何の為にテーピングをするのか、どのような使い分けをするのかをこの授業では学んでいきます。
オフィスアワー	授業開講日の休み時間

【授業計画】

学期	回数	講義内容	到達目標 (SBOs)	講義形態
前期	1	予防医学と運動、貧血	・ 予防医学における運動の役割を理解し説明できる。	講義
	2			講義
	3	アスレティックリハビリテーション	・ ケガから現場へ復帰するための運動器へのアプローチの手法を理解し説明できる。	講義
	4			講義
	5	救急処置、応急手当、熱中症	・ スポーツ現場で生じる障害及び傷害を理解しその概要と現場での対処法が説明できる。	講義
	6			講義
	7	リハビリとコンディショニング	・ スポーツで高いパフォーマンスを得るための、身体に対する有効なスポーツの前後における身体へのアプローチの手法を理解し説明できる。	講義
	8	科目試験および試験解説		試験/講義